

カリキュラムの特徴

大学の地理学教室のカリキュラムは、非常に多彩です。私たちを取り囲む自然環境・人文環境と同じように、カリキュラムも基本的には自然地理と人文地理の科目群に分けられます。このほかに、関連分野、研究法、地域を総合的に論じる地誌、の各科目群があります。

学生は4年間で各分野の専門知識を身につけ、地域を総合的に分析・評価する力を養います。もっとも、一人でなんでも屋になるのは、不可能ですから、卒業を迎える頃までには、学生の興味に応じて、かなり専門化していきます。このように、地理学は、「広がり」というテーマのもとに、人文科学、社会科学、自然科学の諸分野に関わりを持つ学問であるといえます。

国士館大学地理学教室では、最近実施したカリキュラム改革で特に次の二点を力を入れています。①地域計画・都市開発・環境保全・環境評価など、環境を総合的に評価できる力を養える科目群の設置、②データの収集から解析まで、コンピューターを駆使した科目群の設置です。



専門科目一覧

<1年次>
人文地理概説
自然地理概説
地図学
地理実習 I
地理調査法
日本地誌
首都圏地誌
国史概説
東洋史概説
考古学

<2年次>
地理実習 II
外国地誌(アジア)
地形学
空中写真判読
地理データ分析入門
西洋史概説

<3年次>
地理実習 III
地理学演習 I
外国地誌(ヨーロッパ)
外国地誌(アメリカ)
外国地誌(発展途上地域)
文献研究
歴史地理学
経済地理学
都市地理学
民俗学研究
生物地理学
第四紀学
リモートセンシング
資源管理論
計量地理学
地図製作法
気候学
統計情報学

測量学
文化史概説
歴史民俗学

<4年次>
地理学演習 II
外国地誌(環太平洋地域)
文化人類学研究
地域計画論
環境アセスメント
測量学実習
地理情報システム
卒業論文

国士館大学 文学部 地理学教室

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1
TEL.03-5481-3231 FAX.03-5481-3328

<http://www.kokushikan.ac.jp> (大学)

<http://web.kokushikan.ac.jp:8802/> (地理学教室)

MEMO

地理学教室のご案内



人文地理概説/自然地理概説/地図学/地理実習/地理調査法/日本地誌/首都圏地誌/国史概説/東洋史概説/考古学/文学概説/生涯学習概説/外国地誌(アジア)/地形学/空中写真判読/地理データ分析入門/西洋史概説/国際理解教育/中国語会話/環境教育論/女性と教育/哲学概説/論理学概説/倫理学概説/仏教学概説/西洋哲学史/日本思想史/中国思想史/仏教思想史/インド思想史/イスラム思想史/ギリシャ哲学研究/フランス哲学研究/ドイツ哲学研究/西洋美学特殊研究/東洋美学特殊研究/地理学演習/外国地誌(ヨーロッパ)/外国地誌(アメリカ)/外国地誌(発展途上地域)/文献研究/歴史地理学/経済地理学/都市地理学/民俗学研究/生物地理学/第四紀学/リモートセンシング/資源管理論/計量地理学/地図製作法/気候学/統計情報学/測量学/文化史概説/歴史民俗学/民俗学研究/統計情報学/文芸思想史/外国地誌(環太平洋地域)/文化人類学研究/地域計画論/環境アセスメント/測量学実習/地理情報システム/文化人類学研究/美学概説/宗教学概説/中世キリスト教哲学研究/英米哲学研究/日本思想研究/中国思想研究/インド思想研究/イスラム思想研究/仏教思想研究/現代社会倫理特殊研究/生命倫理特殊研究/地球環境倫理特殊研究/情報倫理特殊研究/歴史民俗学/文化史概説/歴史地理学/東洋史特殊講義/漢詩文作法/日中比較文化論/美術史

国士館大学



地理学とは？

私たちを取り囲む環境は、空間的な広がりや時間軸とで構成されていますが、前者が地理学の、そして後者が歴史学の主要テーマです。

ものごとの空間的広がりの中には規則性とか方向性、あるいは偏りとか特異性、例外性、広がりや分布といった現象が見られます。この空間的広がりや分布について理解を深め、そのメカニズムや法則性を検証する、というのが地理学の目的です。

地名を覚えたり、世界の物産を暗記したりという、いわゆる「地理＝暗記物」のイメージとはずいぶん違ってきます。

4年間で身につけること

地理学教室では、学生に総合的(地理学的)判断力をつけてもらうために、4年間で次のようなものを身につけさせたいと考えています。

これらの事項は、自治体の都市計画・再開発・環境保全や企業による市場調査など、企画立案に関わる分野で特に不可欠であると考えからです。



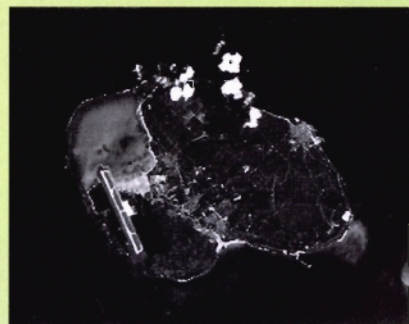
1 地理学的なものの方

地理学の基本テーマは「空間的広がり」です。といっても簡単にそれが実感できる場合もあれば、地理学的訓練を積んでやっと見えてくるものまで、さまざまです。

見えないものを見えるようにする。これが4年間の地理学教育の主要課題です。

4 リモートセンシング

人工衛星がとらえた地球表面の情報を画像として見るのが可能な時代になりました。地理学教室では、ランドサットやスポットなどの衛星データをコンピュータ処理する施設を備え(一人一台)、学生に解析技術を学ばせています。また、ひまわりやノアの気象衛星画像を受信する装置、各種天気図を受信する気象ファックスなども備え、授業にリアルタイムで活用させています。



2 関連分野と調査方法

カリキュラムの多くは、それぞれの学問の系譜と独自の調査法があります。たとえば、気候学で日本の気候を学ぶためには、気象学についての知識が必要ですし、経済地理学で、貿易の話しを理解するためには、経済学の基礎知識が必要です。

地理学専攻の学生は、4年間で各分野の専門知識を学ぶほか、各分野固有の調査法を学びます。いくつか例を挙げれば、土地利用調査、聞き取り調査、アンケート調査と集計、統計情報処理、天気図解析、気象衛星の見方、気象観測器材の扱い方、地形・地質調査、植生調査などです。



5 情報処理

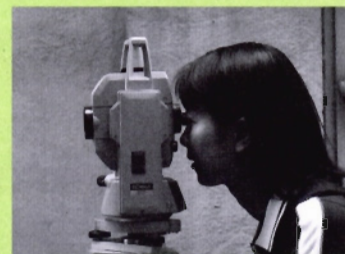
地理学教室では、「パソコン・ワープロは鉛筆・消しゴムに代わる文明の利器である」という認識から、それらの教育に力を入れています。今では、卒論を手書きで提出する学生はごく少数になりました。

また大量の情報処理を行なうためには、目的に応じてパソコン・ワークステーションを使いこなせる必要があります。そこで、情報処理教育に力を入れ、多くの専門科目を設けています。SPSSによる多変量解析や、地理情報システム(GIS)の実習も一人一台のPCを使っています。

3 地図・測量・空中写真判読

事象の広がりや把握したり、分析するためには、地図や空中写真の利用が不可欠です。地図を描いたり、判読できることは、地理学専攻の学生の基本的な要件といえます。

また、学生の多くは、卒業時に測量士補の資格を取得していますが、光波測距儀やセオドライトなどの測量機器が扱え、空中写真を正しく判読できることが適格条件のひとつです。



野外調査で観察力を磨く

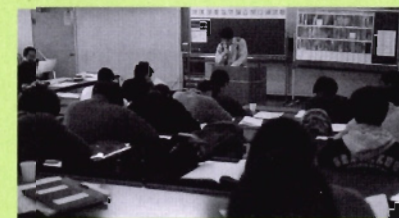
地理学の魅力は、机上の学問ではないという点です。野外実習(地理実習)が頻繁に行われ、地理学的な見方を現地で養います。各学年に必修の野外実習科目が設けられているほか、それぞれの授業の中や夏休みなどを利用した実習が多く組まれています。また、野外実習は学生同士や学生と教員の交流の場でもあり、充実した学園生活のひとつとして学生に記憶されます。



厳しさの中に満足感

さて、4年間の締めくくりとして、学生には厳しい卒論審査が待っています。2年間に及ぶ卒論研究の成果が公開面接試験でためられます。下級生で埋まる階段教室では、主査・副査・他の教員が矢継ぎ早に厳しい質問を浴びせます。努力した者だけが報われる試験場の雰囲気は、下級生のうちから思い知らされます。

面接試験と併せて4年生に対して実施されるアンケート調査結果が毎年公表されていますが、大学生生活最後の関門を通過しつつある学生の満足感がにじみ出ています。



【卒論タイトルの例】

自然地理

- ①石垣島東岸轟川下流および河口域における赤土流出
- ②奥秩父鉄山～國師ヶ岳における縞枯れ現象の主因
- ③赤石山脈東部山伏岳付近の線状凹地・山頂小起伏面の特徴と成因について
- ④南岸低気圧がもたらす積雪の地域特性
—関東地方を例に—

人文地理

- ①地方小都市の消費者行動と小売商業構造の分析
—茨城県鉾田町の場合—
- ②千葉県銚子魚港の経営基盤
- ③高齢化社会における老人福祉施設の現状とその考察
—東京都町田市・多摩市・八王子市の場合—
- ④東京近郊電車の鉄道イメージ
—その形成要因と構造—